



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



高齢者のつながりづくりについて

CONTENTS

CHAPTER1

高齢者のつながりづくりが
必要と考える背景

CHAPTER2

「つながり」に関する統計情報

CHAPTER3

「つながり」に関する
市・区の取組

CHAPTER4

意見交換



CHAPTER1

高齢者のつながりづくりが必要と考える背景

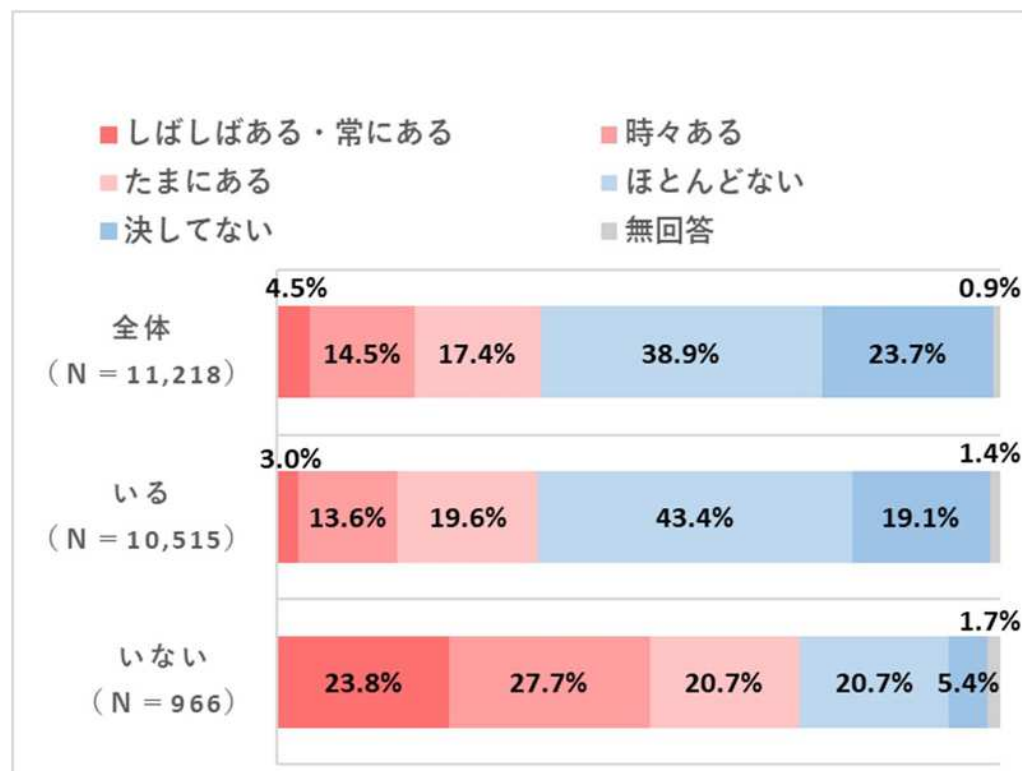
1 CHAPTER1 高齢者のつながりづくりが必要と考える背景

【「つながり」・「相談し合える」ことの必要性】

●高齢者は、他者との交流減等により、望まない「**孤独・閉じこもり**」や社会的「**孤立**」に陥ることで、**要介護、認知症、死亡リスク**が高まるおそれあり

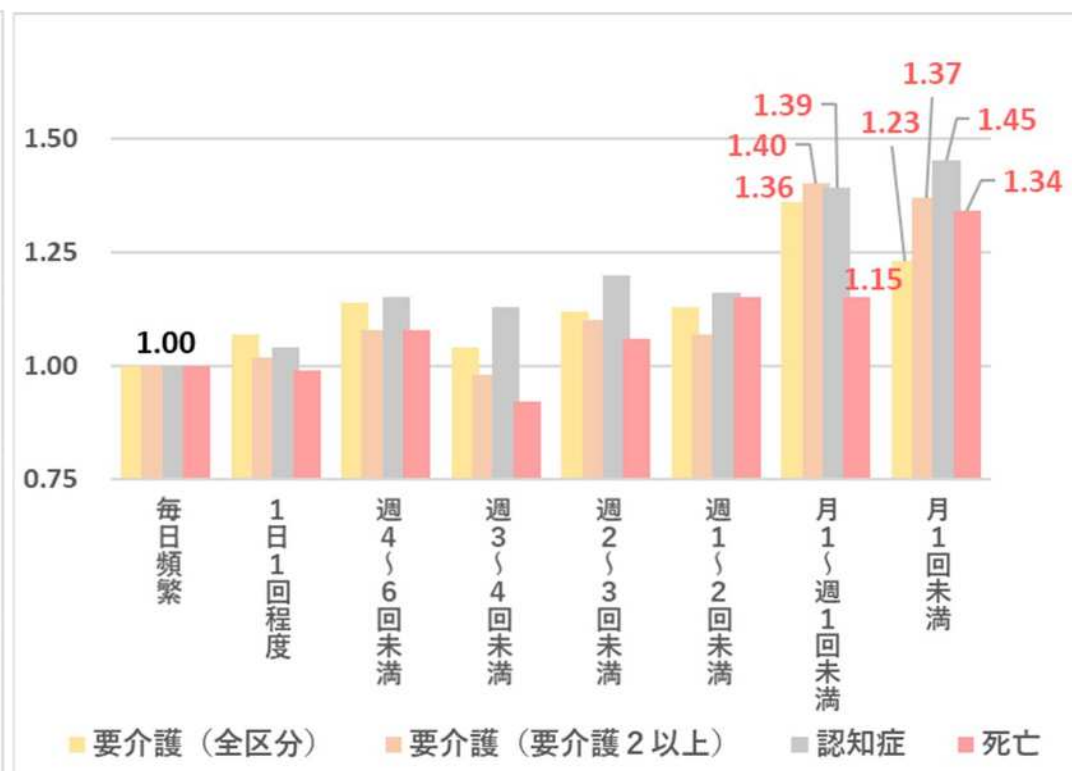
★高齢者一人ひとりが日常顔を合わせる範囲で「つながり」・「相談し合える」関係を築くことができる・築くことができる状態にすることが重要

■【国・参考】孤独感の有無(相談者の有無別・全世代)



内閣府ホームページ(人々のつながりに関する基礎調査(令和5年))より作成

■高齢者 他者との交流頻度と各リスクとの関係



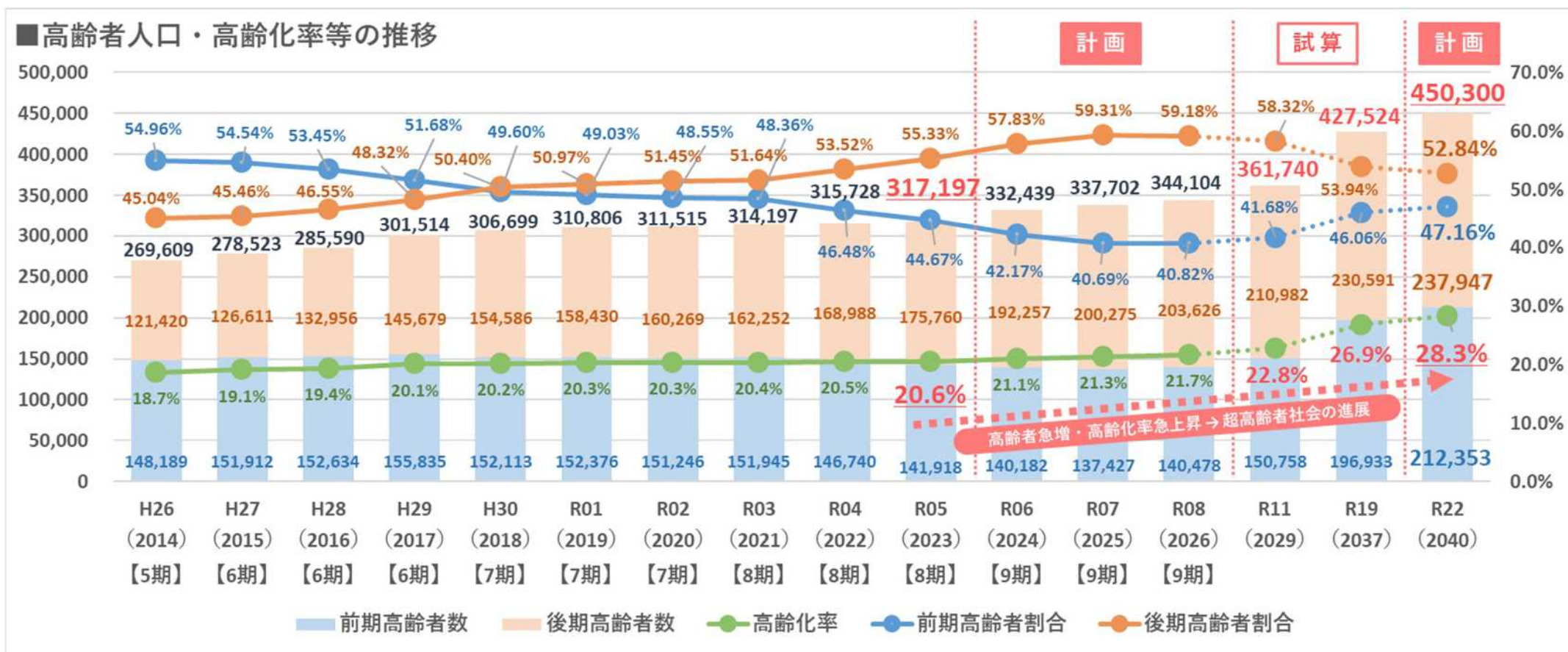
厚生労働省ホームページ(全国社協向け研修資料)より作成



CHAPTER2 「つながり」に関する統計情報

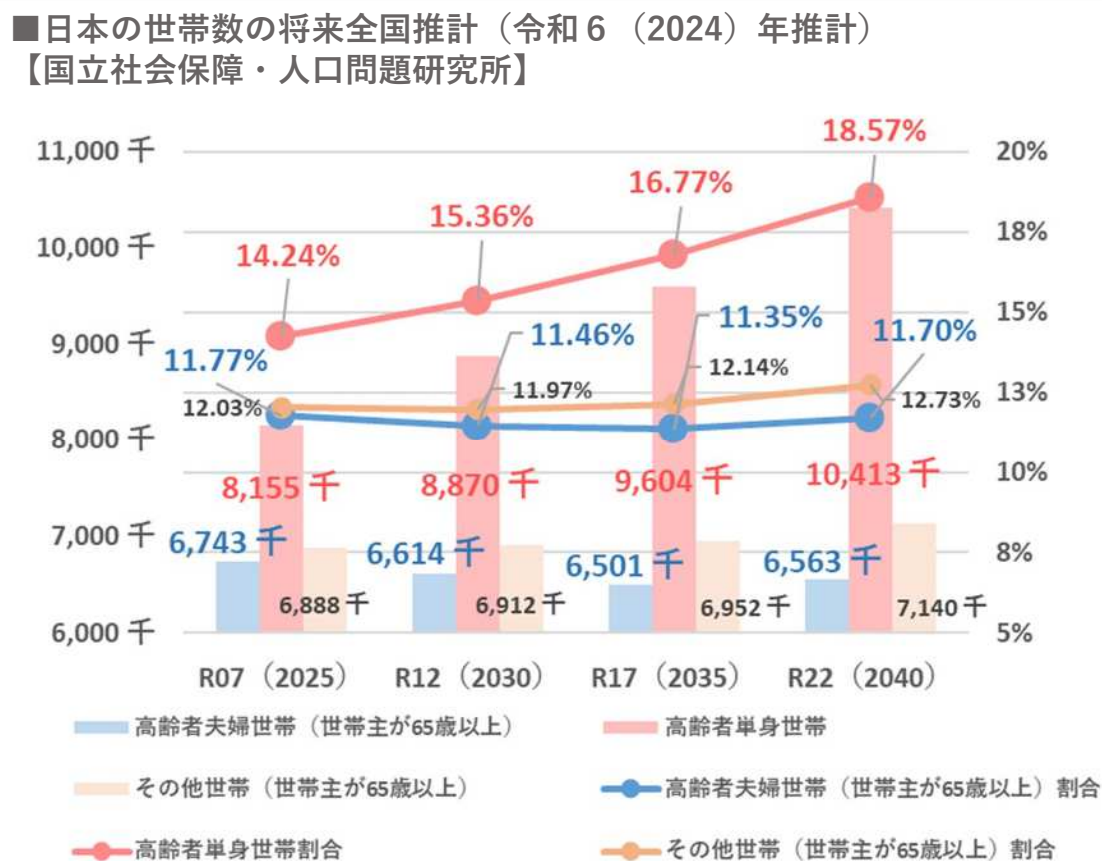
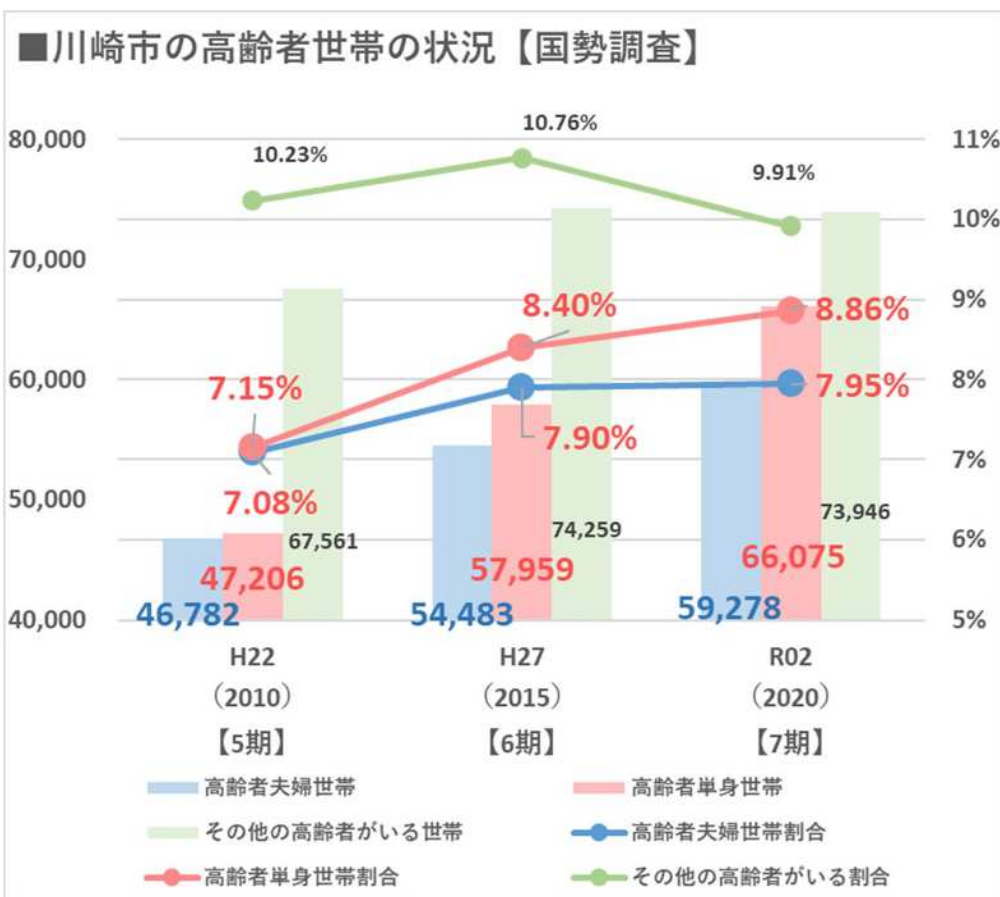
【本市 高齢者人口の推移】

- 令和22(2040)年には、「団塊ジュニア世代」が65歳以上の高齢者へ
→ 高齢者数の急増 & 高齢化率上昇による超高齢社会の一層の進展



【高齢者単身世帯や高齢者夫婦のみ世帯等の推移】

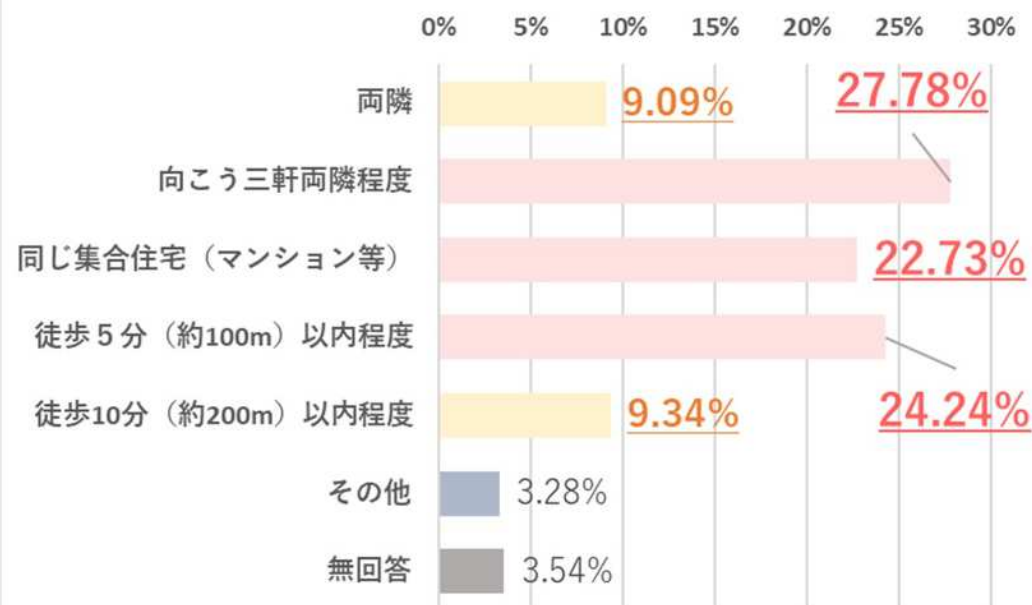
- この10年間で、高齢者単身世帯や高齢者夫婦のみ世帯の世帯数や世帯全体に占める割合が増加傾向にあり、家族や親族との「つながり」の希薄化が見込まれる。



【高齢者にとっての「近所」の範囲やつきあいの程度】

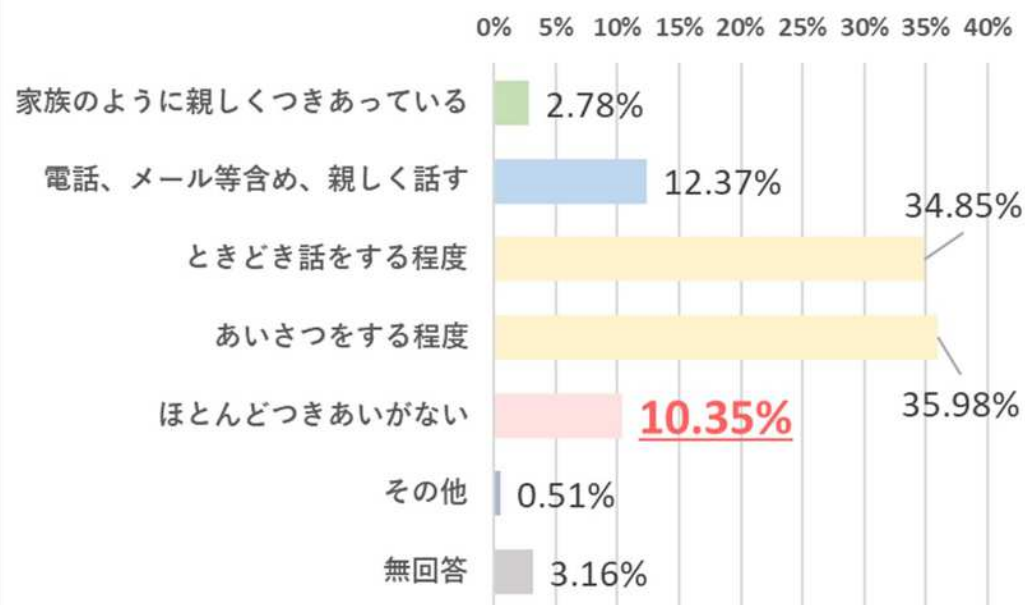
- 高齢者の意識では、「近所の範囲」は、**向こう三軒両隣、同じ集合住宅、徒歩5分圏内**と考える人が多く、**次いで、両隣や徒歩10分圏内**である。
- 近所づきあいについて、「**ほとんどつきあいが無い**」という方が**10%程度**

■令和4年度 高齢者にとっての近所の範囲



N値 = 792人（65歳以上高齢者）/2,450人【地域福祉実態調査】

■令和4年度 高齢者の近所づきあいの程度

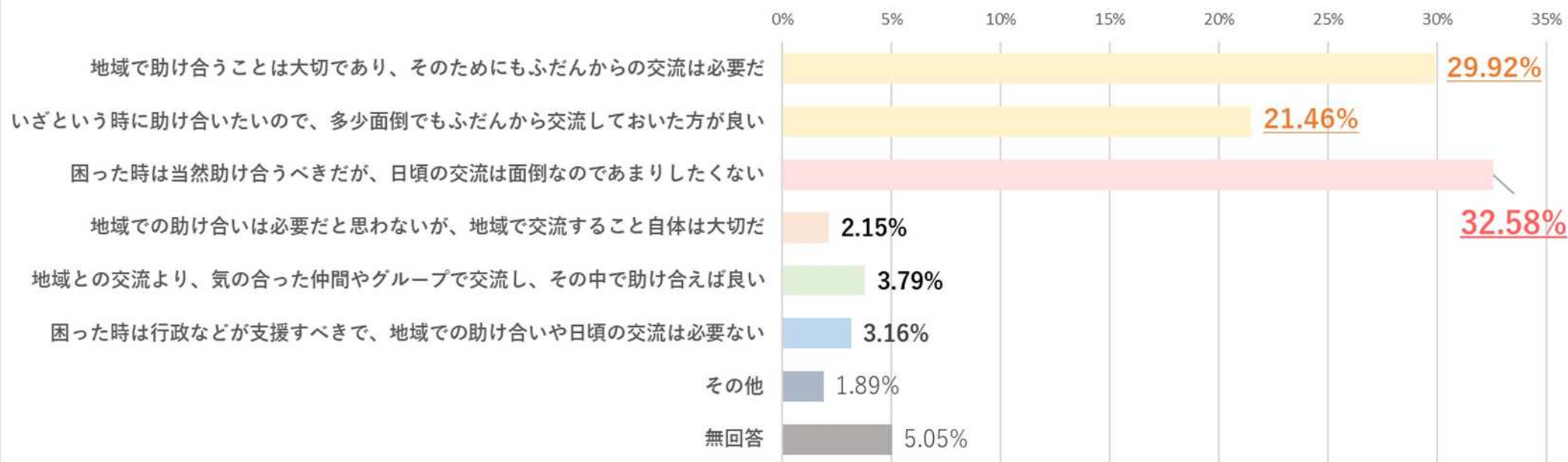


N値 = 792人（65歳以上高齢者）/2,450人【地域福祉実態調査】

【高齢者が必要だと思う（近所・地域）交流の「程度」】

- 普段から交流しておいた方が良いと考える方が**全体の約5割**を占める。
- 一方、「困ったときは助け合いが必要だが、交流はしたくない」という方も**全体の約3割**おり、**強い「つながり」まで求めている方**も少なくない。

■ 令和4年度 高齢者が必要と思う（近所や地域との）交流の「程度」



N値 = 792人（65歳以上高齢者）/2,450人【地域福祉実態調査】

【高齢者の「（日常生活での）心配・悩み」の相談相手】

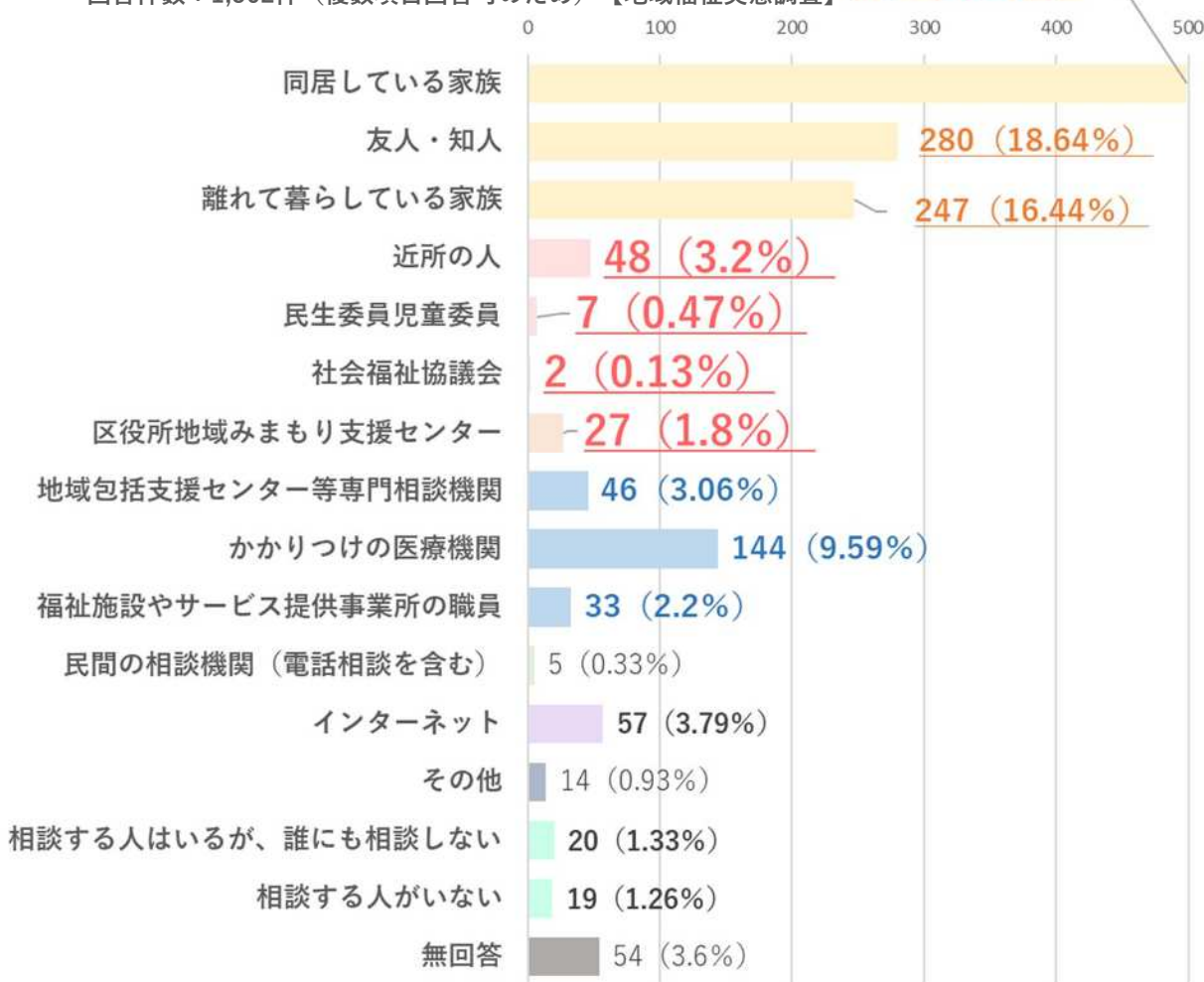
- 高齢者にとって、**身近な相談相手**は、同居家族、友人・知人、離れて暮らしている家族（親族）が最も多い。
- 区役所地域みまもり支援センターや地域（近所の人、民生委員児童委員、社会福祉協議会）については、**「日常の相談相手」**としている割合が少ない。

■ 令和4年度 高齢者の「（日常生活での）心配・悩み」の相談相手

N値＝回答者：792人（65歳以上高齢者）/2,450人

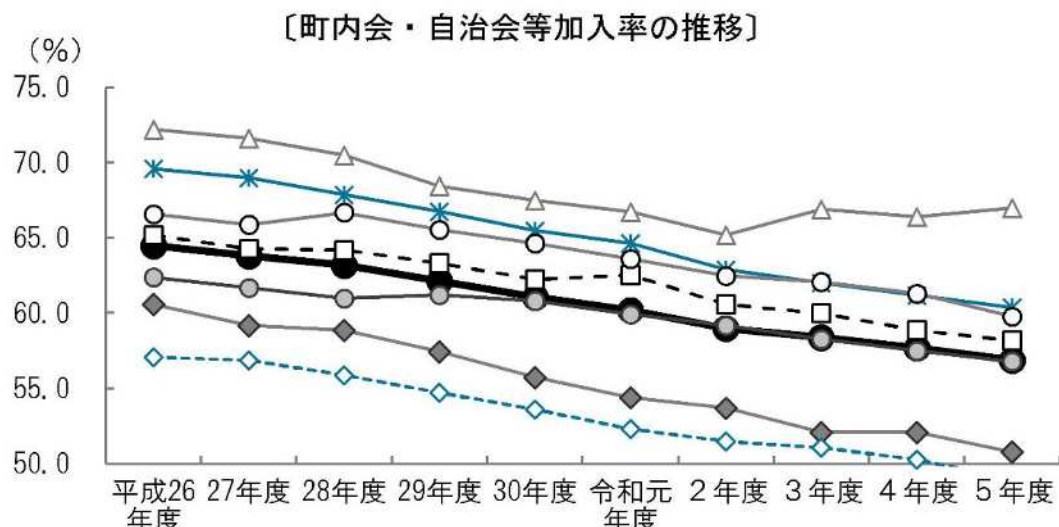
回答件数：1,502件（複数項目回答可のため）

【地域福祉実態調査】



【地域の相談の担い手関係①（町内会・自治会）】

- この10年間で、加入促進に向けた普及啓発等を実施してきた中、**加入率**は、幸区を除き、全体的に**減少傾向**（市全体の平均：64.5%→56.9%・約8%減）



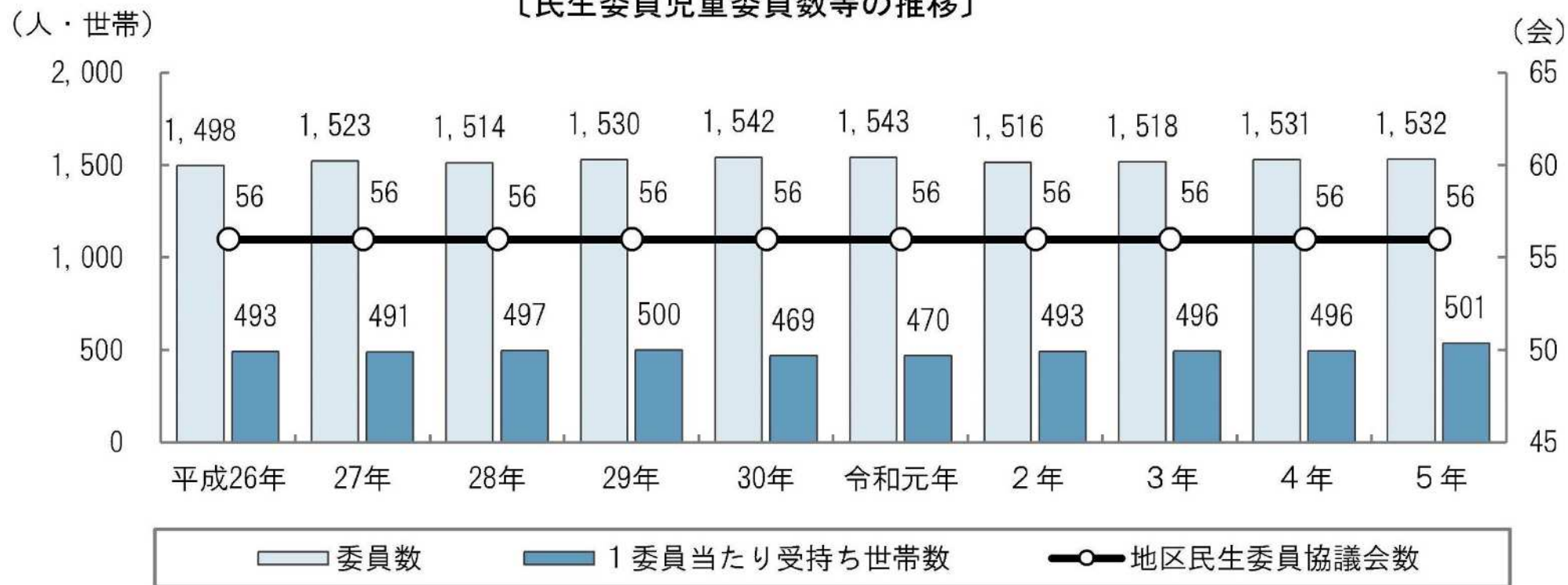
	平成 26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
川崎市	64.5	63.8	63.2	62.1	61.1	60.2	59.0	58.4	57.7	56.9
川崎区	60.6	59.2	58.9	57.4	55.8	54.4	53.7	52.1	52.1	50.8
幸区	72.2	71.6	70.5	68.5	67.5	66.7	65.2	66.9	66.4	67.0
中原区	69.6	69.0	67.9	66.8	65.5	64.6	62.9	62.0	61.2	60.4
高津区	62.4	61.7	61.0	61.2	60.8	59.9	59.2	58.3	57.5	56.8
宮前区	65.2	64.3	64.2	63.3	62.3	62.5	60.6	60.0	58.9	58.2
多摩区	57.1	56.9	55.9	54.7	53.6	52.3	51.5	51.1	50.3	49.0
麻生区	66.6	65.9	66.7	65.6	64.6	63.6	62.5	62.1	61.3	59.8

資料：川崎市統計書（各年度4月1日現在）

【地域の相談の担い手関係②（民生委員児童委員）】

- 人口、世帯数は増加している一方で、地区民生委員協議会数は**横ばい**
- 1委員当たり受持ち世帯数は令和5(2023)年に 501 世帯となり、**増加傾向**

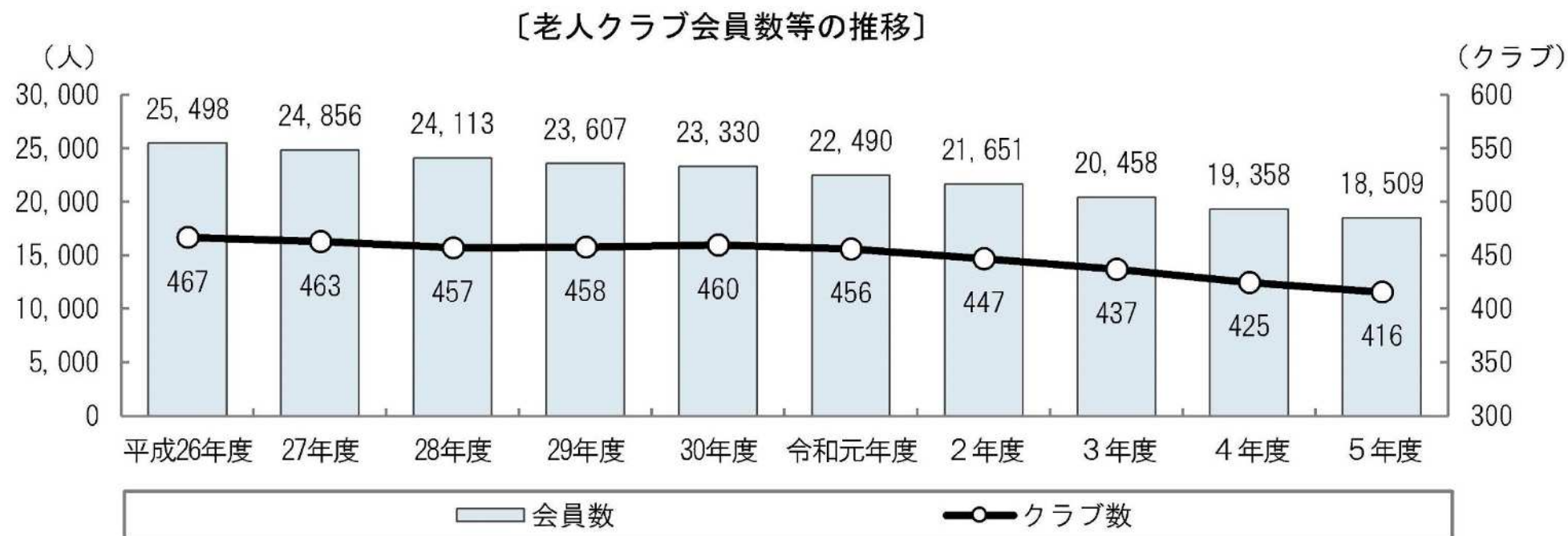
〔民生委員児童委員数等の推移〕



資料：川崎市統計書（各年4月1日現在）

【地域の相談の担い手関係③（老人クラブ）】

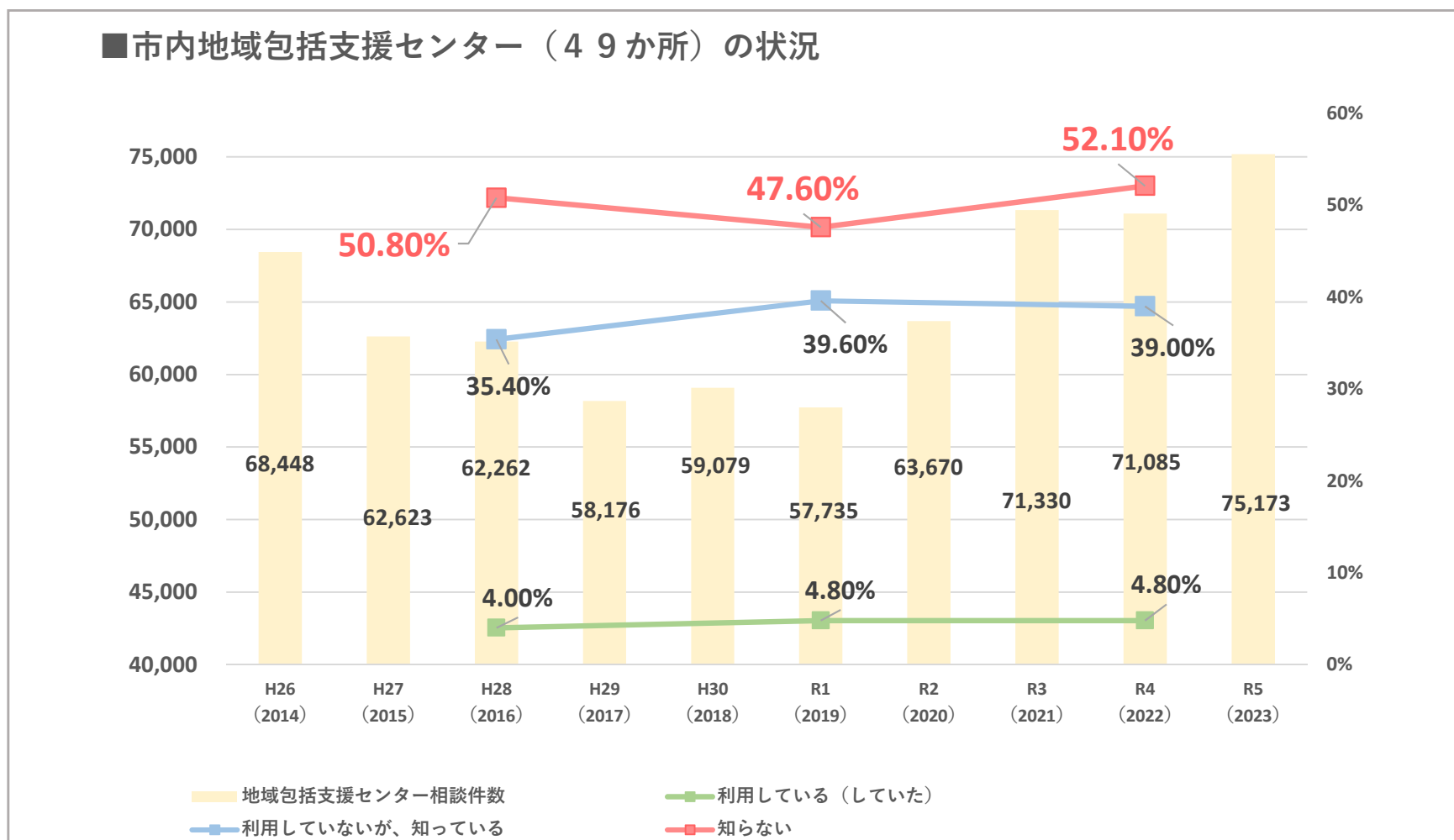
- 加入する新規会員が少なく、現行会員の高齢化も進み、**会員数が減少傾向**
- クラブ設立に必要な人数の要件緩和を行ってきたが、**クラブ数も減少傾向**



資料：川崎市統計書（各年度4月1日現在）

【地域の相談の担い手関係④（地域包括支援センター）】

●令和元年以降、相談件数は増加傾向にあり、今後も同様の傾向が続くと想定



■出典：地域包括支援センター業務実績報告書、地域福祉実態調査

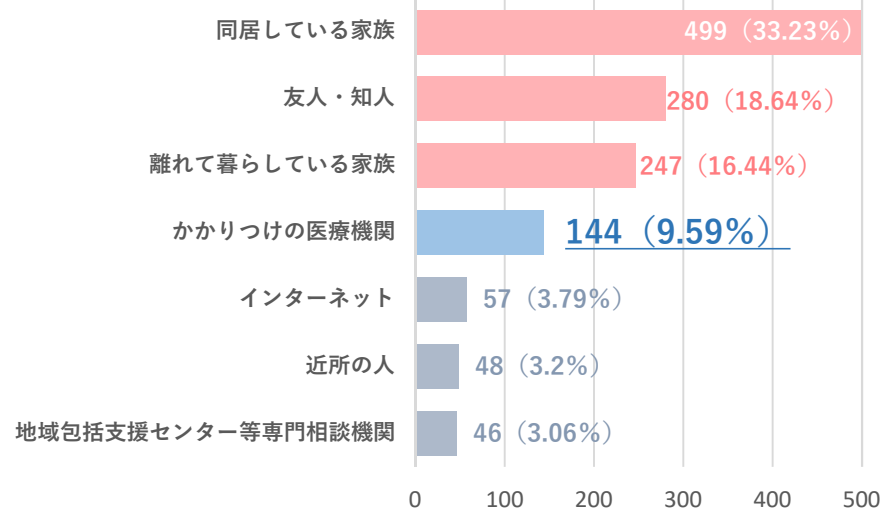
【地域の相談の担い手関係⑤（かかりつけ医）】

- 65歳以上で**かかりつけ医がいる人の割合は平均で77.8%**となっており、年齢が上がるにつれてその割合は増加。また、**「心配・悩み」の相談相手として、「家族」、「友人・知人」に次いで多い状況**

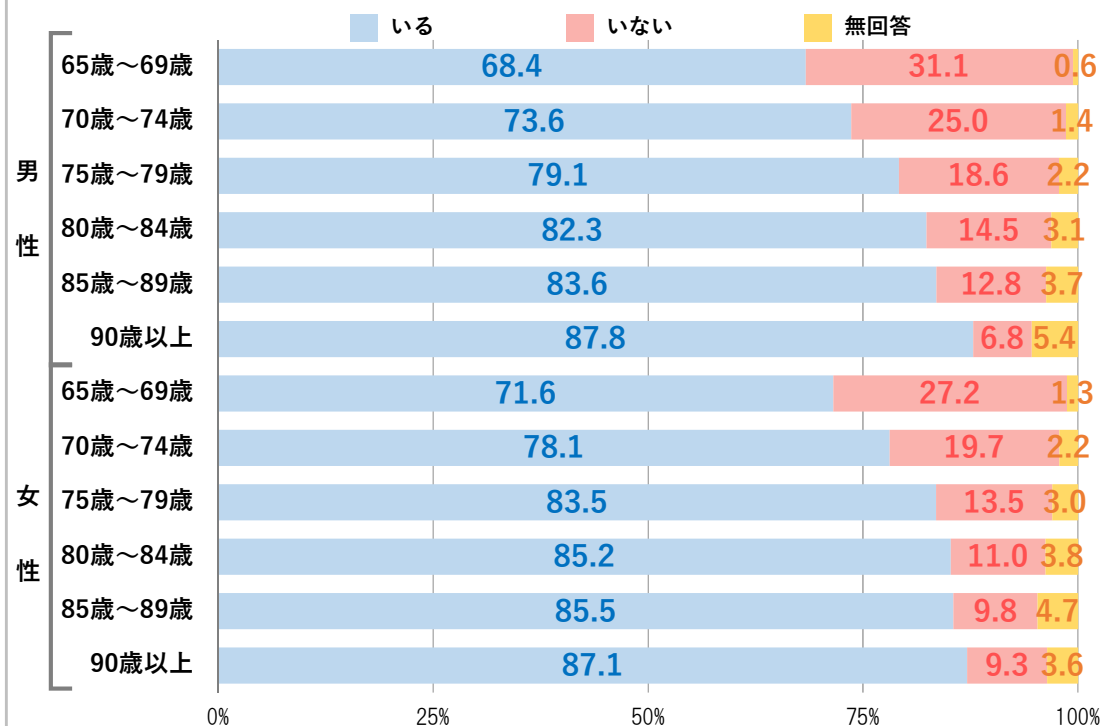
■かかりつけ医とは

健康に関することをなんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介してくれる、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

■令和4年度高齢者の「（日常生活での）心配・悩み」の相談相手（再掲）



■令和4年度 かかりつけ医がいるひとの割合





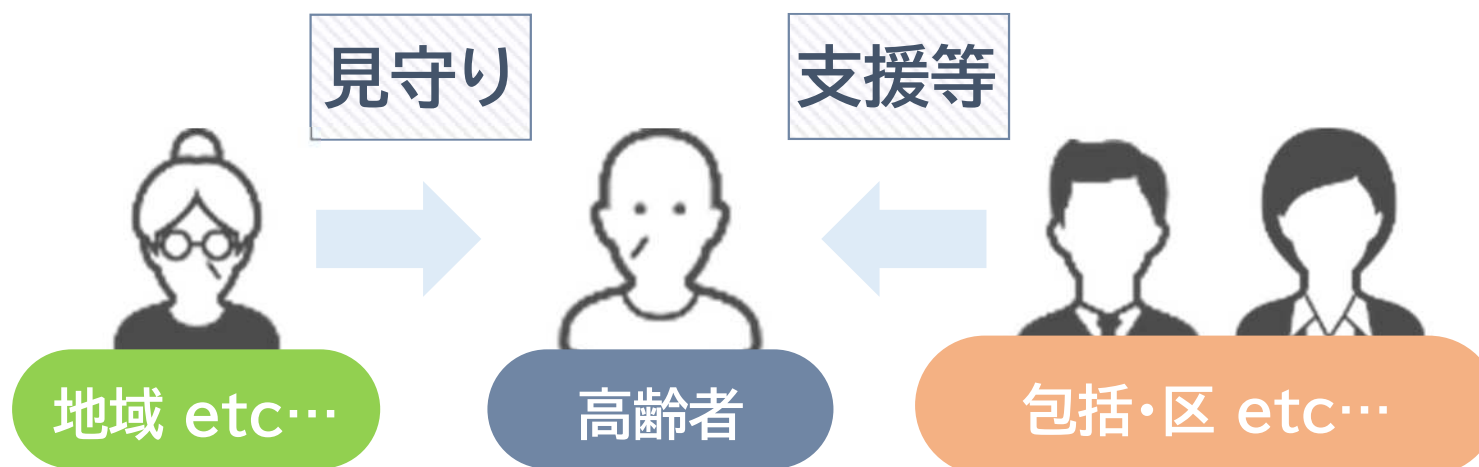
CHAPTER3

「つながり」に関する市・区の実組

【ひとり暮らし高齢者等の支援】

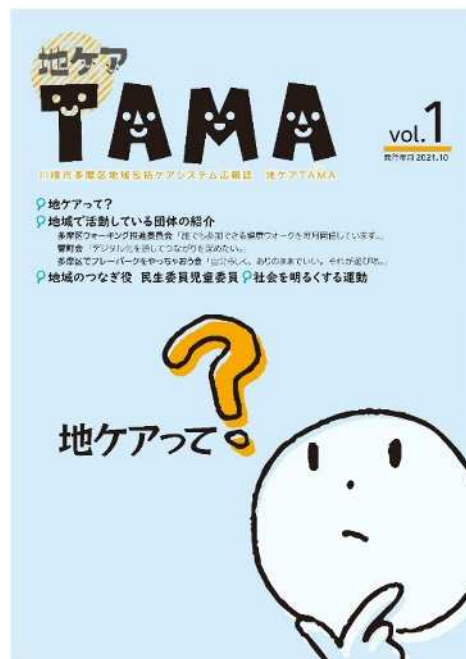
●「高齢者生活状況調査」により、

- ①75歳以上の②介護サービス等を受けてない
- ③ひとり暮らし等高齢者の「一人ひとり(世帯)」の状況を全数把握(約7万人)

●①世帯状況、②緊急連絡先、③外出頻度、④相談先等の状況を踏まえ、地域や専門機関の「見守り」や支援へ

【自助や地域の「見守りネットワーク（づくり）」の推進】

- 区等による老後に向けた①交流の必要性、
②備え、①や②のための「つながり・相談」先の普及・啓発等



- 区等による①地域活動の立ち上げ・支援や②賑わいの創出による誘因、
③企業等と連携したネットワークづくり等を推進

【地域包括支援ネットワークの構築・充実】

●地域包括支援センター等によるエリア内の高齢者への相談・支援やアウトリーチ等を通じ、「生活課題」等を把握

多摩区 地域包括支援センター



- 令和5年4月1日現在の情報です。住所・電話番号等の最新情報はホームページをご確認ください。
- 他区のセンターについては、ホームページをご確認ください。



★→地域包括支援センターの場所です

- 地域包括支援センターは、地区担当所となっています。ご相談の際は、お住いの地域を担当する地域包括支援センターへご連絡ください。※担当のセンターがわからない場合は、区役所（P8参照）までご連絡ください。
- ご相談方法は、ご自宅への訪問・お電話・センターでの面談など対応可能です。まずは、お電話ください。※不在の場合がありますので、直接お越しの際は事前にご連絡ください。

A 菅の里

住所 多摩区菅北浦 3-10-20
TEL **044-946-5514** FAX 044-946-3432
担当 菅、菅野戸呂、菅稲田堤、菅馬場 1・2 丁目、菅城下、菅北浦

B よみうりランド花ハウス

住所 多摩区菅仙谷 4-1-4
TEL **044-969-3116** FAX 044-969-3160
担当 菅馬場 3・4 丁目、赤尾台、菅仙谷、枳形 1-4 丁目、生田 4-8 丁目

C 太陽の園

住所 多摩区栗谷 2-16-6
TEL **044-959-1234** FAX 044-959-1233
担当 栗谷、西牛田、南牛田

D 多摩川の里

住所 多摩区中野島 6-13-5
TEL **044-935-5531** FAX 044-935-3511
担当 和泉、布田、中野島、生田 1-3 丁目

E 長沢壮寿の里

住所 多摩区三田 1-18-11
パート 8 1 階
TEL **044-935-0086** FAX 044-935-0093
担当 東生田、枳形 5-7 丁目、長沢、東三田、三田

F 登戸

住所 多摩区登戸 1891
第 3 井出ビル 3 階
TEL **044-933-7055** FAX 044-933-7077
担当 登戸新町、登戸、宿河原 1・2 丁目、長尾 1・2 丁目

G しゅくがわら

住所 多摩区宿河原 6-20-19
TEL **044-930-5151** FAX 044-930-5911
担当 宿河原 3-7 丁目、横、長尾 3-7 丁目



CHAPTER4 意見交換

【論点】

【論点1】

周りの人とのつながりを持たない高齢者について、どのように捉えているか？

《1-1》 地域の中で、こうした方を見かけたり、それぞれの団体等で話題になることがあるか？ある場合、具体的にお話しいただきたい。

《1-2》 それぞれの立場で、どのような課題があると思うか？

【論点2】

周りの人とのつながりを持たない高齢者が困りごとを抱えて孤立しないために、どのような環境づくりが重要だと思うか？

ここでいう「高齢者」は団塊世代(1947～1951生)より上の方を想定。

《団塊の世代の特徴など》

項目	内容
時代背景	・世界的ベビーブームの到来 ・米ソ冷戦、ベトナム戦争 ・テレビの普及 ・経済復興の始まり ・「学園紛争」を始める
特徴	・人数が多く、競争意識が強い ・日本にはじめて「私生活」を持ち込む ・「戦争の呪縛」から解放された最初の世代 ・「封建制」と「革新性」が共存
消費・文化の背景	・第1次テレビっ子世代 ・欧米文化を自分のものとして受け入れた最初の世代 ・若者文化を最初に始める(マンガ誌、インベーダーゲーム) ・グルメブームの到来
恋愛・結婚	・はじめてのデートと同棲を始める ・見合い婚と恋愛婚が逆転 ・いまは「孫ケア」「孫育て」 ・合同ハイキングが人気 ・「仕事か結婚か」で専業主婦に
消費のツボ	・「孫消費」(金も口も出す) ・ラジオへの信頼度が高い ・「新発売」「日本初」「世界初」に弱い、新しいものの好き ・狙いは「夫婦のエスコート消費」 ・メディアの流行報道に敏感 ・仲間好きゆえ「仲間消費」

出典:『世代論の教科書』(阪本節郎、原田曜平著、東洋経済新報社、2015)を参考に作成